



園だより

文京区立第一幼稚園
令和元年度12月号

URL <http://www.bunkyo-tky.ed.jp/dai1-kg/>

手作りの温かさ

園長 田村 秀子

晩秋の木々の葉が赤、オレンジ、黄色と美しく色付いています。園庭でポプラの黄色い葉を拾っていた子が、たくさん集めて花束のようにしたものを嬉しそうに見せてくれました。気に入った色や形の葉やどんぐりを選び、おめんベルトに貼り付けたりネックレスのように作ったりして、素敵なものを身に付けて遊ぶ子もいました。

外は少しずつ寒くなってきましたが、幼稚園の中には子供たちの手作りの遊びがいっぱいです。身近なものを使って、遊びに使うものを作り、友達と思いを伝え合いながら遊ぶ子供たちを見ていると、心が温かくなってきます。

年少組はツヤツヤしたどんぐりを一つずつ、大事そうに持って、テーブルの斜面を転がしています。どこに入るかじっと見たり、一度にたくさんをバーンと転がしたりし、目を輝かせて繰り返し楽しんでいました。保育参観の保護者の方が見ている時はちょっと恥ずかしそうでしたが、廊下のステージで元気に歌ったり踊ったり、自分で作った動物を連れてあちこち散歩に出かけたりする姿も見られます。

年中組もどんぐりの遊びが好きで、斜面の上に思い思いに箱や芯を貼り付けて試していました。うまく転がると友達にも伝え、一緒に喜んだり、転がす時の場所や力加減を自分なりに工夫したりしています。保育参観の時は自分たちで作ったお化け屋敷やお店にお客さんが大勢来てくれて、とても嬉しそうでした。保育参観のアンケートを見ると、手作りの遊びの楽しさ、温かさを感じてくださった保護者の方が多く、嬉しく思いました。

年長組は同じどんぐり転がしでも、どこを通過してどこに入るか予想し、それを友達に言葉で伝えて一緒にコースを作っています。予想外の転がり方をすると「～だからじゃない?」「こうやってみたら?」と一緒に考え、工夫しています。また小さなネコやひよこを作って遊んだり、自分のグラブを作って野球ごっこをしたり、木の実やホイップ粘土を使って本物のようなお菓子を作ったりなど、作って遊び、楽しむ姿があちこちで見られています。

このように、自分でいろいろなものを作ったり、作ったものを使ってごっこ遊びをすることは、とても知的な活動です。自分でイメージする力や描いたり作ったりして実現していく力、友達とコミュニケーションをとる力などが必要です。時には思うようにできなかつたり、うまく伝え合えなかつたりすることもあります。子供たちは日々の遊びの中で自分なりに考え、大切な力や態度、知恵を身に付けていきます。

文部科学省の資料によると、これからの時代で求められるのは、「自立した人間として、主体的に判断し、多様な人と協働しながら、新たな価値を創造する人材の育成」です。聖心女子大学の河邊貴子先生は「これからの時代に求められる思考力を育てるために、幼児期の遊びで大切にしたいのは、文化的実践としての遊びに自ら参加していくこと(主体的態度の形成)、人やものとのかかわりを深めていくこと(他者とのコミュニケーション)、実践を作り変えていくことの充実感を味わうこと(自己課題と共同課題の関係構築・協同の態度の形成)」と話されていました。

「よく遊ぶ」ことは「よく学ぶ」ことです。12月も自分の手で作り出す楽しさや人と関わって取り組む楽しさをさらに広げていけるようにしたいと思います。「もちつき」も皆で力を合わせる、伝統的な行事です。手作りの楽しさ、温かさを感じていただければと思います。